

DATA PROCESSOR

Patent Number: JP11331454
Publication date: 1999-11-30
Inventor(s): ARAUMI YUICHI
Applicant(s):: RICOH CO LTD
Requested Patent: ☐ JP11331454
Application Number: JP19980136978 19980519
Priority Number(s):
IPC Classification: H04N1/00 ; B41J5/30 ; H04N1/21
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PROBLEM TO BE SOLVED: To process data requiring the evasion of storage by an operation similar to normal time and to improve the availability and reliability of a system for unconsciously filing processing data by obtaining the necessity/unnecessity of backup from the feature of the processing data relating to a data processor for unconsciously transferring the processing data to be copied, transmitted or recorded or the like to a storage means as backup data.

SOLUTION: In a copying machine 10 provided with the data processing functions of a copying function, a facsimile transmission function and a printer function and also provided with a transfer function for transferring the processing data to a large capacity storage device 12 stored/managed by a server device 13 as the backup data, an image processing part for recognizing an evasion symbol entered in the instruction area of an original from the processing data and a control part for inhibiting the transfer to the server device 13 of the processing data for which the evasion symbol is recognized are provided.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-331454

(43) 公開日 平成11年(1999)11月30日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

H 0 4 N 1/00

H 0 4 N 1/00

C

B 4 1 J 5/30

B 4 1 J 5/30

Z

H 0 4 N 1/21

H 0 4 N 1/21

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平10-136978

(22) 出願日 平成10年(1998) 5月19日

(71) 出願人 000006747

株式会社リコー

東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号

(72) 発明者 荒海 雄一

東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式
会社リコー内

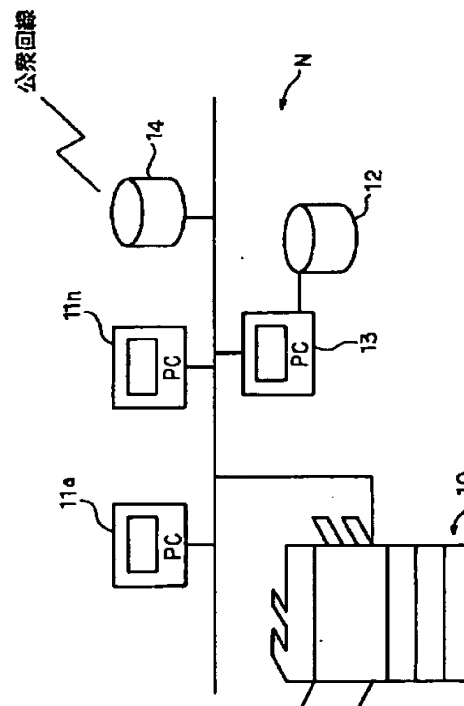
(74) 代理人 弁理士 有我 軍一郎

(54) 【発明の名称】 データ処理装置

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、複写、伝送または記録などする処理データを無意識にバックアップデータとして記憶手段に転送するデータ処理装置に関し、処理データの特徴からバックアップの要否を取得できるようにすることにより、通常と同様な操作による蓄積を回避することが必要なデータの処理を可能にして、無意識に処理データをファイルするシステムの利用性および信頼性を向上させる。

【解決手段】 複写機能、ファクシミリ伝送機能、プリンタ機能のデータ処理機能を備えるとともに、該処理データをバックアップデータとしてサーバ装置13が蓄積・管理する大容量記憶装置12に転送する転送機能を備える複写機10に、原稿の指示領域 P a に記入された回避記号を処理データから認識する画像処理部32と、該回避記号が認識された処理データのサーバ装置13への転送を禁止する制御部21と、を設けた。



装置の記憶手段に転送する転送機能を備えるデータ処理装置であって、前記データ処理機能によるデータ処理前から該データ処理機能による処理データの転送処理終了までに当該処理データをバックアップデータとして前記記録手段に記憶・蓄積することを回避する意向を取得する意向取得手段と、該意向の認められる処理データをバックアップデータとして蓄積することを回避する蓄積回避手段と、を設けたことを特徴とするものである。

【0008】この請求項1に記載の発明では、蓄積を回避する意向が取得されない処理データは同一のデータがそのままバックアップデータとして記憶手段に転送され記憶・蓄積される一方、蓄積を回避する意向が取得されたときには処理データと同一のデータがバックアップデータとして記憶手段に蓄積されることが回避される。したがって、処理するデータに他と異なる特徴を利用することにより、同様なデータ処理の操作であっても蓄積不要な処理データであることを把握・通知してバックアップされることを回避することができる。

【0009】請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の発明の構成に加え、前記意向取得手段は、原稿または記録紙として用いられた蓄積回避専用用紙の特徴を認識できたときに処理データの蓄積回避意向を取得することを特徴とするものである。この請求項2に記載の発明では、特定の色やマークやバーコードなどにより特徴付けられた蓄積回避専用用紙により通常時と異なることを認識し処理データの蓄積を回避する意向を取得することができる。したがって、蓄積回避専用用紙を秘密文書や試し刷り文書などの原稿や記録紙として用いるだけで、その処理データがバックアップされることを回避することができる。

【0010】請求項3に記載の発明は、請求項1に記載の発明の構成に加え、前記意向取得手段は、前記データ処理機能に指定された処理条件に応じて処理データの蓄積回避意向の有無を判定し取得することを特徴とするものであり、請求項4に記載の発明は、請求項3に記載の発明の構成に加え、前記意向取得手段は、前記データ処理機能に処理データの処理条件として指定される、原稿または記録紙のセット位置、記録紙の排紙位置、処理データの伝送相手先、あるいは、処理データの記録依頼元がいずれであるかに応じて該処理データの蓄積回避意向の有無を判定し取得することを特徴とするものである。

【0011】この請求項3、4に記載の発明では、データ処理の指定処理条件、例えば、ストップキーの押下を含めて、コピーやファクシミリ送信する原稿のセット位置の指定、コピーやファクシミリ受信やプリントアウトに用いる記録紙のセット位置の指定、記録済みの記録紙を排紙する位置の指定、ファクシミリデータの送信先や送信元、あるいは、プリントデータの記録依頼元などによる処理データを予め蓄積を回避するものとして設定しておくことにより、通常時と異なることを認識し取得す

ることができる。したがって、通常時と同様に処理条件を指定する操作で、その処理データがバックアップされることを回避することができる。

【0012】

【発明の実施の形態】以下、本発明を図面に基づいて説明する。図1～図3は本発明に係るデータ処理装置の第1実施形態を適用したファイルシステムの一例を示す図であり、本実施形態は請求項1、2に記載の発明に対応する。

【0013】図1において、10は事業所内のイントラネットNに接続されている高機能デジタル複写機であり、この複写機10が接続されているイントラネットNはデータを有効利用するためのデータ管理ファイルシステムに構築されており、このファイルシステムはデータバックアップ機能を備えてバックアップデータをユーザの必要に応じて再利用することができるように構築されている。

【0014】このイントラネットNは、複写機10を利用可能な複数のパーソナルコンピュータ（PC）11a～11n（n：自然数）と、複写機10やPC11a～11n（以下、単にPC11という）で処理される処理データを受け取って読み出し返送可能に大容量記憶装置12内に記憶・蓄積させ管理するサーバ装置13と、電話回線やISDN網などの公衆通信回線を介して他のファクシミリ装置などのデータ通信装置やインターネットに接続するための接続装置14とにより構築されている。

【0015】複写機10は、画データを伝送するファクシミリ通信や文書データをPC11との間などで伝送するデータ通信などを行なう伝送機能と、読取画データを記録出力する複写（コピー）機能と、ファクシミリ受信データやPC11で作成された文書データなどを記録・プリント出力する記録機能とを備えるデータ処理装置を構成しており、複写機としてだけでなく、ファクシミリ装置、プリンタ装置、スキャナ装置としても利用することができる。

【0016】サーバ装置13は、複写機10で処理するデータをイントラネットNを介して受け取って、記憶手段を構成するイントラネットN上の大容量記憶装置12に送ってそのまま蓄積させるようになっている。また、このサーバ装置13は、ユーザによる要求に応じて大容量記憶装置12に蓄積させた処理データを読み出して複写機10に転送し、記録出力などさせることも可能である。なお、この大容量記憶装置12は複写機10内に大容量HDD装置として内蔵するようにしてもよい。

【0017】PC11は、CPU、メモリ（ROM、RAMなど）、およびI/O（Input/Output）回路等からなり、ディスプレイを見ながらキーボードやマウスなどを操作することにより不図示のハードディスク装置（記憶媒体）内から読み出したアプリケーションプログラムに従って演算処理などを行うことにより文書や画像の作

理データをバックアップデータとすることを回避する意向を確認（取得）し、回避指示がある場合には制御部21がサーバ装置13への処理データの転送を禁止する。すなわち、給紙部29に意向取得手段を構成させることもできる。

【0024】したがって、社内の機密文書などのようにバックアップされては問題となる文書をファクシミリ送信／コピーする場合などには、ユーザは原稿作成時に前記回避記号を付した蓄積回避用紙を用いるだけでよく、その処理データから前記回避記号が認識された場合には秘密文書がサーバ装置13に転送されバックアップされてしまうことを回避することができる。

【0025】また、既に蓄積回避用紙ではない通常の用紙に作成された原稿の場合や、PC11で作成した文書などを試し刷りする場合などは、給紙部29の記録紙カセット内に蓄積回避用紙を記録紙としてセットするだけでその記録紙に記録する処理データは蓄積を回避するものであることが取得されてサーバ装置13に転送されバックアップされてしまうことを回避することができる。

【0026】このように本実施形態においては、ユーザが意識することなくファクシミリ送信・受信／コピー／プリントアウトする処理データをサーバ装置13に蓄積・管理させバックアップすることの可能な複写機10であっても、試し刷りや秘密文書など明らかにバックアップを必要としないものをデータ処理する場合には、専用の蓄積回避用紙を使用することにより、通常通りの操作でバックアップを取ることなく、ファクシミリ送信・受信／コピー／プリントアウトすることができる。したがって、特別なボタン操作を要求するために、操作を煩わしくしたり、そのボタン操作を誤らせることがなく、蓄積しておく必要な処理データのみをバックアップすることができ、記憶容量を浪費することもない。

【0027】なお、本実施形態では、原稿の蓄積回避用紙として指示領域Paに回避記号を付したり、記録紙の蓄積回避用紙として指示領域で光を透過可能にすることを説明するが、給紙部29に読取手段を配設するなどしていずれかに統一してもよいことは言うまでもなく、回避記号に限らず、バーコードとしたり、用紙の色やトーンを認識可能にして蓄積回避用紙として色付き用紙を用いるようにするなど、通常の用紙とは異なる特徴を持つものとすれば良いようにもすることができる。

【0028】また、本実施形態では、蓄積を回避する処理データであることを取得すると、サーバ装置13に転送すること自体を禁止する場合を説明するが、その認識時間よりも先に転送制御可能な場合には、その途中や処理データの転送終了後に蓄積回避命令をサーバ装置13に送って削除するようにしてもよい。また、ファクシミリ送信・受信／コピー／プリントアウトの操作途中で操作ミスなどのためにストップキーが押下された場合にも、蓄積を回避する意向と判断するようにしてもよいことは言

うまでもない。

【0029】次に、図4は本発明に係るデータ処理装置の第2実施形態を適用したファイルシステムの一例を示す図であり、本実施形態は請求項1、3、4に記載の発明に対応する。なお、本実施形態は上述実施形態と略同様に構成されているので、図1、図2を流用して同様な構成には同一の符号を用いて特徴部分を説明する。図4において、複写機10は、読取部26の読取位置に分離給紙する原稿をセットする位置として、処理データのバックアップを制限せずに通常処理する原稿をセットする原稿テーブル27aと、処理データのバックアップを回避する秘密文書などの原稿をセットする原稿テーブル27bと、が原稿搬送部27に設けられており、原稿テーブル27a上の原稿を検知する状態でスタートキーが押下された場合には、ファクシミリ送信あるいはコピーする原稿の読取画データと同一の処理データをそのままサーバ装置13に転送しバックアップを取る一方、原稿テーブル27b上の原稿を検知（取得）する状態でスタートキーが押下された場合には、原稿搬送部27はその検知情報を制御部21に通知し、制御部21はサーバ装置13への処理データの転送を禁止しバックアップを回避する。すなわち、原稿搬送部27が意向取得手段を構成する。

【0030】このように本実施形態では、原稿搬送部27への原稿のセット位置が原稿テーブル27a、27bのいずれであるかにより、ファクシミリ送信／コピーする処理データをバックアップするか否かを取得することができ、特別な操作を要求することなく処理データのバックアップを回避することができる。次に、図5は本発明に係るデータ処理装置の第3実施形態を適用したファイルシステムの一例を示す図であり、本実施形態は請求項1、3、4に記載の発明に対応する。なお、本実施形態は上述実施形態と略同様に構成されているので、図1、図2を流用して同様な構成には同一の符号を用いて特徴部分を説明する。

【0031】図5において、複写機10は、記録部28の記録位置に分離給紙する記録紙をセットする位置として、処理データのバックアップを制限しない通常処理用の記録紙をセットする記録紙カセット29a、29bと、処理データのバックアップを回避する秘密文書や試し刷り用の記録紙をセットする記録紙カセット29cと、が給紙部29に設けられており、制御部21はファクシミリ受信／コピー／プリントアウト時に使用する記録紙として記録紙カセット29a、29bから分離・給紙することが指定された場合にはその処理条件に従って同一の処理データをそのままサーバ装置13に転送しバックアップを取る一方、記録紙カセット29cを指定された場合にはその処理条件に従ってサーバ装置13への処理データの転送を禁止しバックアップを回避する。すなわち、制御部21が意向取得手段を構成する。

【0032】このように本実施形態では、給紙部29が給

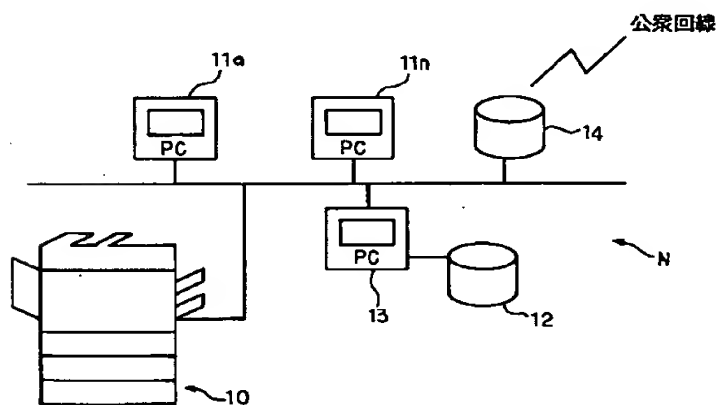
示す一部外観斜視図である。

【符号の説明】

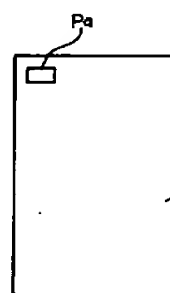
- 10 複写機（データ処理装置）
 11a～11n パーソナルコンピュータ
 12 大容量記憶装置（記憶手段）
 13 サーバ装置
 14 接続装置
 21 制御部（蓄積回避手段、意向取得手段）
 22 表示部
 23 操作部
 24 NCU部
 25 通信制御部

- 26 読取部
 27 原稿搬送部（意向取得手段）
 27a、27b 原稿テーブル
 27c 背景部材
 28 記録部
 29 給紙部（意向取得手段）
 29a～29c 記録紙カセット
 29d、29e 手指しトレイ
 30a、30b 排紙トレイ
 30 排紙部
 31 画像メモリ
 32 画像処理部（意向取得手段）

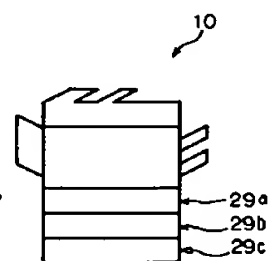
【図1】



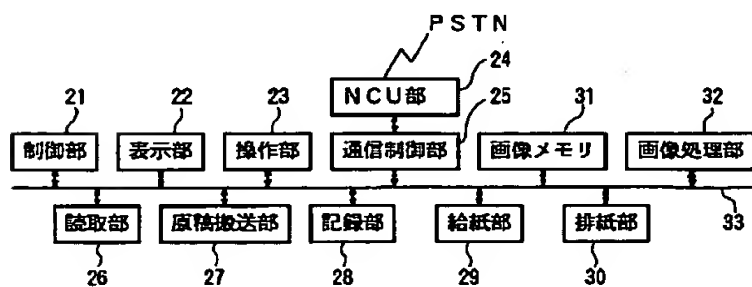
【図3】



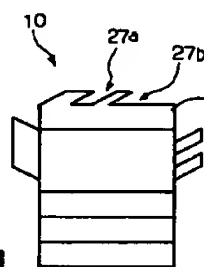
【図5】



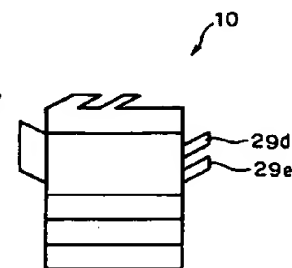
【図2】



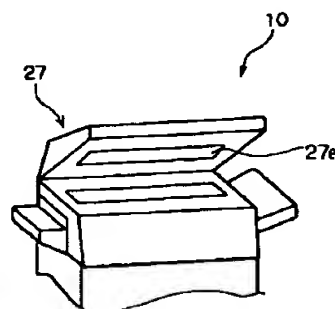
【図4】



【図6】



【図8】



【図7】

